

基本目標	1	子育てしやすいまち
------	---	-----------

■目指す姿
多様な保育サービスの利用やコミュニティでの支え合いの中で、子育て世帯が不安なく希望の子どもの数を持ち、ゆとりをもって生活(子育て)している。

■数値目標		
目標指標1①	現状値(H29)	目標値(R6)
合計特殊出生率	1.27人	1.44人
目標指標1②	現状値(R1)	目標値(R6)
子育て世帯の住みやすさの満足度	5.52点	6.02点

■施策体系



■数値目標のグラフ		
目標指標1① 合計特殊出生率(人)		
	R2目標値	1.36
	R2実績値	1.24
達成状況	×	
<指標の説明> 女性が一生のうちに産む子どもの数を示したもの。翌年1月1日現在の住民基本台帳をもとに市で独自に算出。出生率向上に向けた施策を実施することにより、令和6年度には1.44人を目指します。		
目標指標1② 子育て世帯の住みやすさの満足度(点)		
	R4目標値	5.82
	R4実績値	5.32
達成状況	×	
<指標の説明> 市民満足度調査における「総合的な住みやすさの満足度」を7点満点で評価したもの。就学前の子ども、小学校・中学校の子どもを持つ回答者の平均値。子育て支援を充実させ、毎年度0.1点増やし、令和6年度には6.02点を目指します。 ※ H29・R2・R3・R4実績値は郵送調査、H28・H30・R1実績値はWEB調査によるもの。		

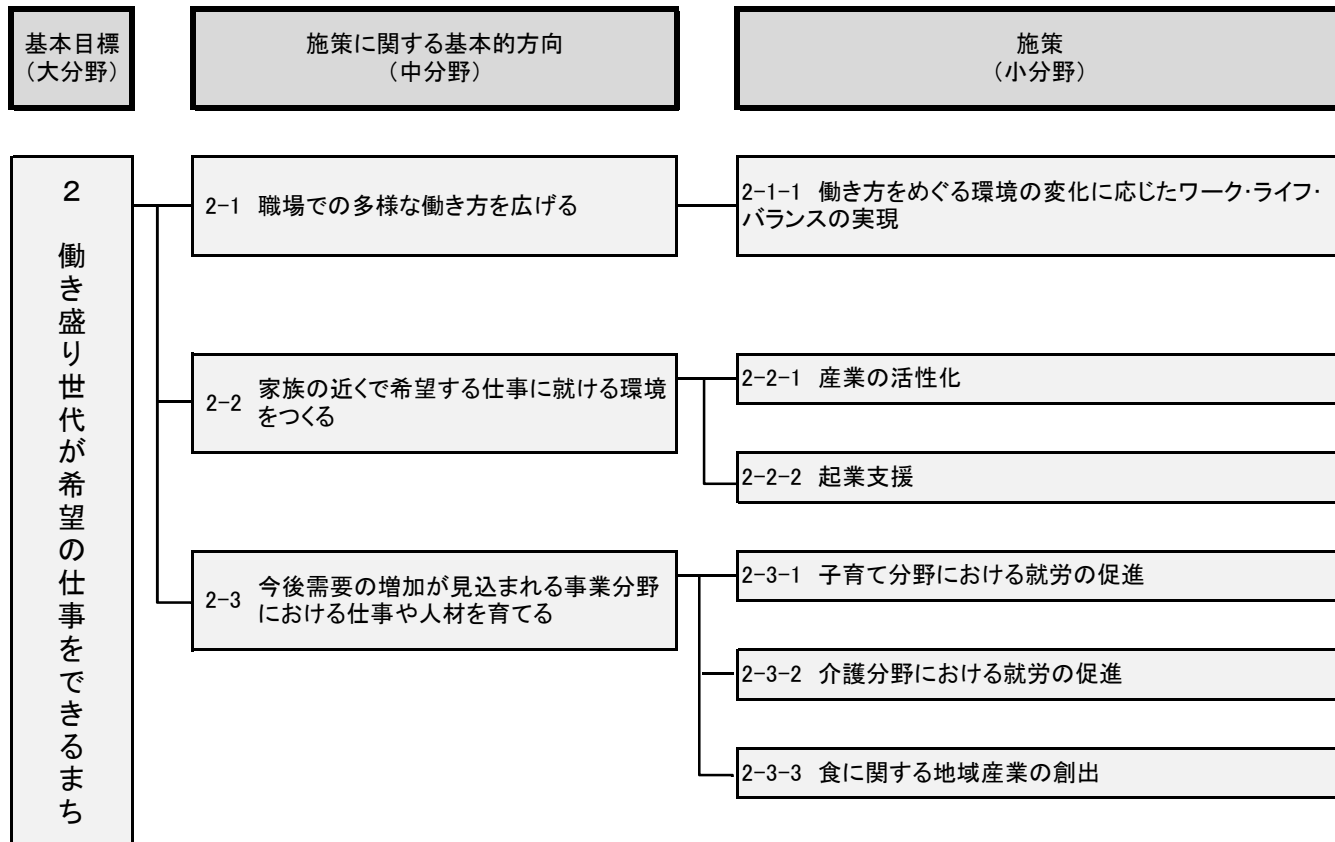
■基本目標実現への効果等
前年度に引き続き、コロナ禍により、子育て支援を行うにあたり難しい一年であった。そんな中、妊娠期から継続的に支援し、地域で子育てを見守る体制を強化することにより、子育て世帯がゆとりをもって子育てに臨めるよう取り組んだ。並行して、子育て環境の改善に努めたことで、保育所における実質待機児童数はR4.4時点で10名となった。また、教育分野では、効果的なICT教育を行えるよう、教員のスキル向上に取り組んだ。目標指標については、コロナによる妊娠・出産控えも影響し、合計特殊出生率はR2時点で1.24人となった。例年1,000人前後で推移していた出生数もR3は630人と急激に減少している。一方、「子育て世帯の住みやすさの満足度」は第1期から継続的に取組を進めてきた効果もあり、上昇傾向にある。新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会が加速度的に変化したことに加え、出産控えも相まって、出生数の激減という大きな課題が表面化した。目指す姿にあるよう、子育て世帯が不安なく希望の子どもの数を持ち、ゆとりをもって生活(子育て)できるよう全庁横断的にサポートする必要がある。

基本目標	2	働き盛り世代が希望の仕事ができるまち
------	---	--------------------

■目指す姿
ワーク・ライフ・バランスに関する取組が進み、働き盛り世代が多様な働き方を選択しているとともに、仕事を自ら起業するするなど家族の近くで希望の仕事ができている。

■数値目標		
目標指標2①	現状値(H28)	目標値(R6)
市内従業者数	27,043人	27,283人
目標指標2②	現状値(H30)	目標値(R6)
法人設立届出数	120件	150件

■施策体系



■数値目標のグラフ

目標指標2① 市内従業者数		H30目標値	〈指標の説明〉
		27,103	経済センサスにおける、市内事業所での従業者数(公務を除く)。企業の雇用支援だけでなく、人材の掘り起こし、ワーク・ライフ・バランスの向上などに取り組むことにより、令和6年度には27,283人を目指します。
		H30実績値	
		-	※R1経済センサス(基礎調査)が新規事業者の従業員数のみの調査に変更になったので、既存事業者の従業員数が把握できなかった。
		達成状況	
		-	
目標指標2② 法人設立届出数		R3目標値	〈指標の説明〉
		135	市課税課に提出された法人設立申告書の年間届出件数。様々な起業支援に取り組むことにより、令和6年度には150件を目指します。
		R3実績値	
		135	
		達成状況	
		○	

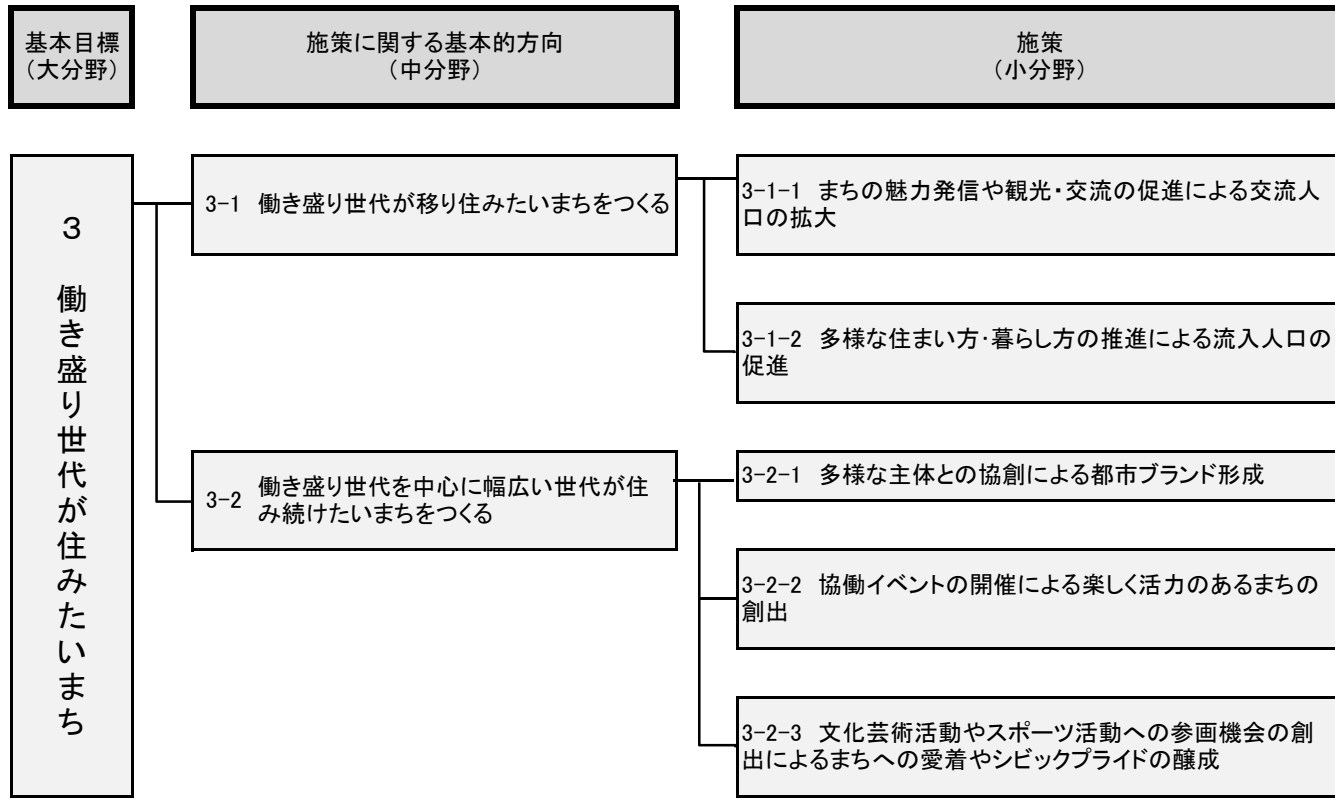
■基本目標実現への効果等
昨年度に引き続きコロナ禍で、一部セミナーやイベントを中止せざるを得なかったが、可能な限りオンラインで実施した結果、リアルでは参加が難しい層にもアプローチできた。ライフスタイルの選択肢を増やす「スタイリングウィーク」は、全10講座を開催し、延べ175人が参加し、新しい働き方・暮らし方を普及・啓発することができた。就業支援においては、幅広い世代を対象に就職面接会を開催し、希望の仕事に就けるよう後押しをするとともに市内事業者の人材確保につながった。起業支援においては、市外在住者を対象とした「IKOMA LOCAL BUSINESS HUB」を実施し、交流会や伴走支援を実施するとともに、昨年度から引き続き「いこま経営塾」を開催し、全8回の講座開催、民間事業者と連携した伴走支援を通じて起業希望者の事業実現に向けて支援することができた。目標指標①「市内従業者数」については、経済センサス(基礎調査)の調査方法が変わったことにより、実績を把握することができなかった。②市課税課で把握している法人設立届出数については、135件となり目標を達成することができた。また、2020年国勢調査の結果が一部公表され、本市の課題であった35-39歳女性の就業率(2015年 63.3%)が72.3%に向上し、伸び率(9.0%)も全国平均(5.4%)と比べて顕著であったことから、希望の仕事ができるまちに近づいたと考える。

基本目標	3	働き盛り世代が住みたいまち
------	---	---------------

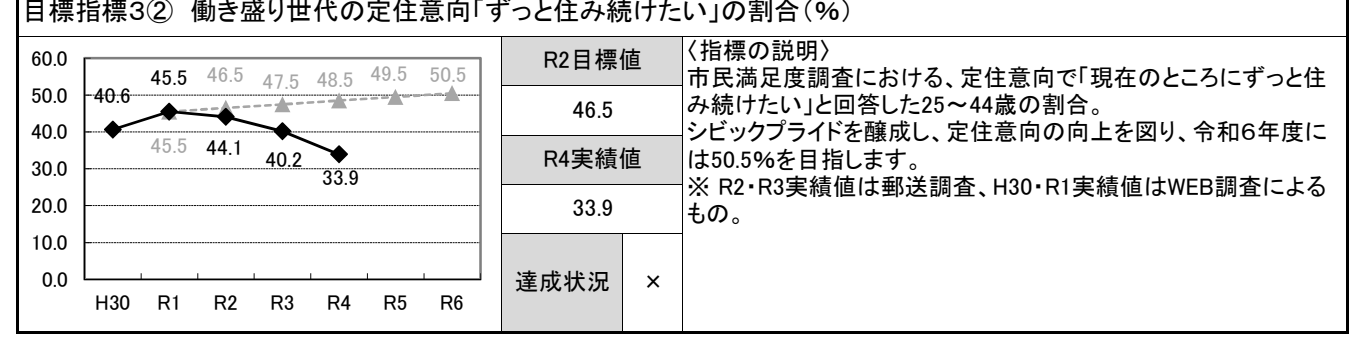
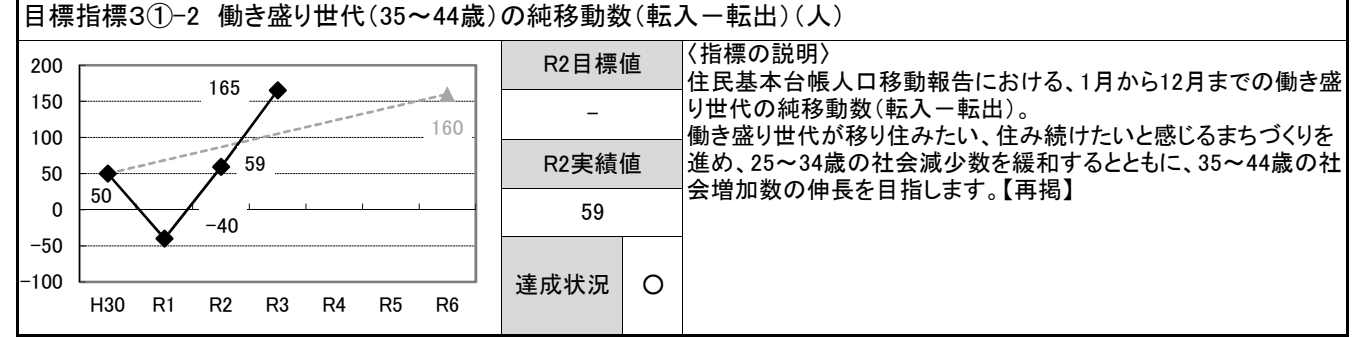
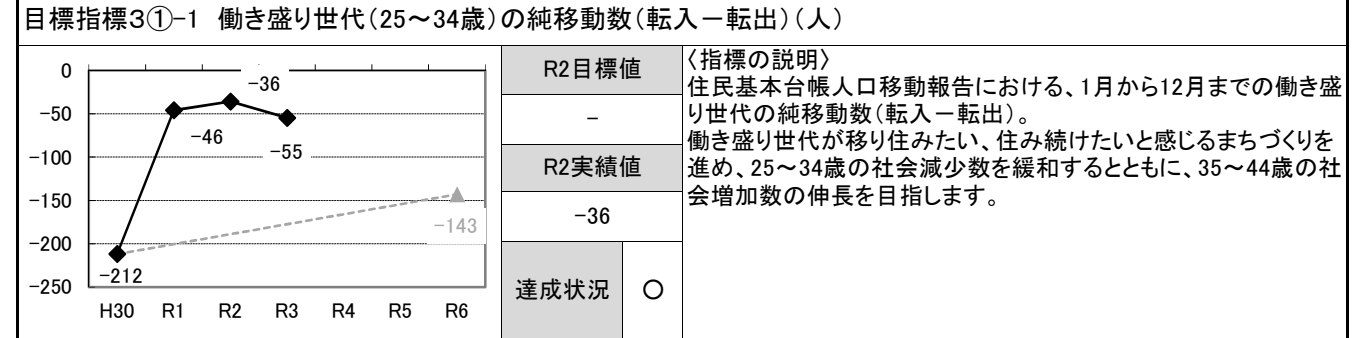
■目指す姿
多様な住まい方・暮らし方の推進により、働き盛り世代にとって魅力的なまちとして認知され、都市ブランドの形成と交流人口が拡大しているとともに、その魅力に惹かれて市外から働き盛り世代が新たに市に流入してきている。また、市内においても働き盛り世代を中心にシビックプライドが醸成され、定住促進が進んでいる。

■数値目標		
目標指標3①	現状値(H30)	目標値(R6)
働き盛り世代(25～34歳)の純移動数(転入－転出)	-212人	-143人
働き盛り世代(35～44歳)の純移動数(転入－転出)	+50人	+160人
目標指標3②	現状値(R1)	目標値(R6)
働き盛り世代の定住意向「ずっと住みたい」の割合(%)	45.5%	50.5%

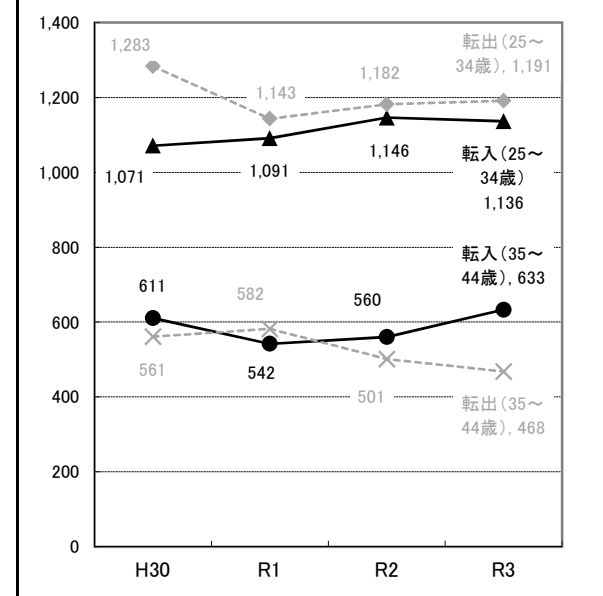
■施策体系



■数値目標のグラフ



(参考)働き盛り世代の転入転出数(人)



■基本目標実現への効果等

昨年度に引き続き、「IKOMA SUN FESTA」が中止になるなど、イベントを通じた市外へのアピールは難しかったが、ポータルサイト「good cycle ikoma」を核に、SNSなど多様な媒体を通じ、地域情報を発信した。コロナ禍を経て、全国的に地域移住の機運が高まっており、転入者の獲得に向けて、市外に積極的にアピールしていくことが重要だと考える。定住促進については、いこまち宣伝部による地域魅力発信や地域特性に応じたワークショップの開催を通じてシビックプライドの醸成に努めた。目標指標①「働き盛り世代の純移動数」については、特に35歳～44歳の転入増加、転出減少が顕著で目標を大幅に上回った。一方で、25歳～34歳は、転入が微減、転出が微増しており、要因分析の上、早急に対処する必要がある。また、②「働き盛り世代の定住意向「ずっと住みたい」の割合」は、減少傾向が続いており、今後の転出増加につながる懸念があるため、シビックプライドの醸成に取り組む必要がある。